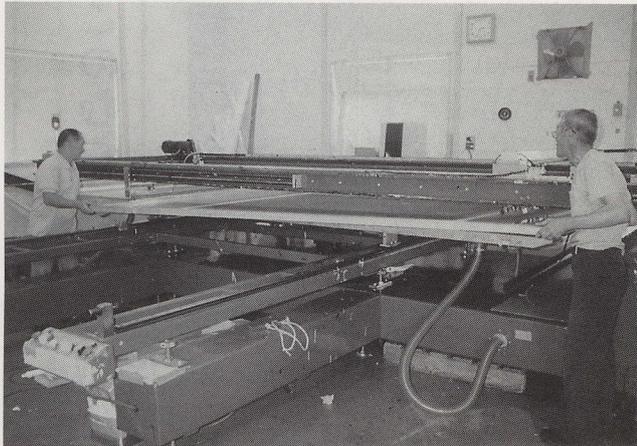
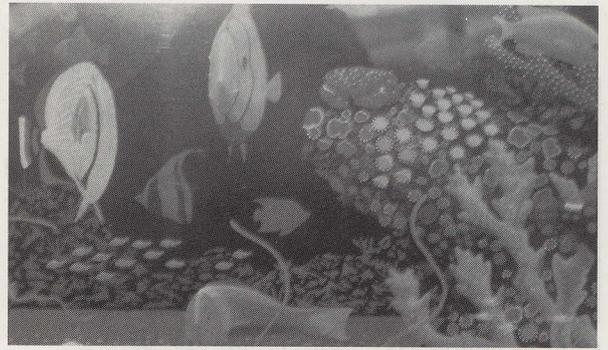


探訪 チャレンジ企業 6

機械プラス技術力の発揮

富来町・有限会社 ハーキュリープリント



業界最大の機械が大型の印刷を可能にしている

これといった産業も少なく、人口の減少が続く能登の地に、スクリーン印刷業界で日本最大の機械設備を有し、日本で一、二といわれる技術を駆使し、地元よりも東京・大阪からの発注が殆どという、知る人ぞ知る企業がある。それは富来町給分にある有限会社ハーキュリープリントである。同社は平成二年、社長小馬勝洋さんの出身地富来町に進出した企業だけに、一般に余り知られていないが、企業内容は実にすばらしい。

同社の特色

同社の特色として第一にあ

げられるのは、同業界最大の機械を持つているので、大型の印刷が可能であり、そのため印刷用途面が拡大されたこと。第二は、優れた技術を発揮していること。これは社長さん自身が日本でも三人しかいないスクリーン印刷の技術者であること。そして印刷インクの調色に優れた実績をもち、メーカーの色見本の中に社長名のついた数色があるということである。また非常に優れた良い製品を仕上げるので、発注先は一流企業が多い。

例えば、デイズニールランド十五周年の飾り旗、積水ハウスの現場用テント、J O M O 石油の看板、小松製作所トラクター側面窓枠の刷り込み等、その他電通・博報堂といった広告業界大手からの発注等が数多くある。

社長の活躍

同社を特徴づけているのは、社長ご自身の職人魂によるものである。製品を仕上げるのに単に機械にまかせるのではなく、技術を付加して



「常に発注者の満足を得るために努めている」と話す小馬社長

機械製品以上のものを常に作り上げようと努めていることである。スクリーン印刷は生きものであるといわれる程、一刷り一刷りに微妙な差があり、職人魂はこれを見逃さず、常にきれいな仕上がりがもって、発注者の満足を得るよう努めている。そのため社長は、印刷現場に張り付き、作業指示、製品仕上がりを監視する一方、少なくとも一人前の技術者といわれるには、最低十年かかるので、目下技術者育成に余念がない。

スクリーン印刷の状況

スクリーン印刷とは、約三十年程前に西欧からもたらされた印刷技法である。オフセット印刷の原理を基本として

いるが、被写体の上に絵柄を描いたスクリーンを置き刷り上げるもので、被写体は、テント、シート、鉄板、樹脂合板、塩ビシート等多彩である。従ってこの技術が日本に伝わるや短期間に広まると同時に、日本人特有の優れた技術力は西欧水準を突破し、今や世界中から高く評価されている。

石川ブランドに対して

かかる中でのわが国で一、二の企業であるから、同社は石川ブランドにふさわしき企業といえる。同時に石川ブランドの名声を一層高めるといえよう。これに應えるかのようには社長は、リピートには更により製品をモットーとしており、実に誇れる企業といえる。

(お問い合わせ)

有限会社 ハーキュリープリント

羽咋郡富来町給分二の二十一番地

TEL (〇七六七) 四二二二八二

FAX (〇七六七) 四二二二四二

この新コーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会をお訪ねください。